



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	院47期修士副論文・修士論文要旨：2015年3月修了（学会記事）（fulltext）
Author(s)	
Citation	学芸地理(71): 122-123
Issue Date	2016-02-18
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/145220">http://hdl.handle.net/2309/145220</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

## 院 47 期 修士副論文要旨

2015 年 3 月 修了

### 観光に着目した高校地理学習の提案

小池 直之

現代社会では、多くの社会的問題が顕在化しており、持続可能な社会の実現が目指されている。持続可能な社会を構築するためには、市民的資質の育成が不可欠であり、多くの地理学的視点を持つ観光は、主体的な学習を展開する教材として有効である。イギリスの地理教育においては、観光を教材として市民的資質の育成をはかった授業が数多く展開されており、市民的資質育成を視野に入れた授業実践において非常に参考になる。そこで本研究では、イギリス地理学習の観光に関する内容と方法を検討した上で、高校地理教育における観光を教材とした地理学習の提案を試した。

まず日本における現行の学習指導要領と教科書の分析を行った結果、観光は、他地域との結びつきを理解する視点、産業としての観光を理解する学習内容で構成されていた。一方、イギリスの地理学習においては、観光そのものの知識・理解の獲得ではなく、持続可能な社会を実現するための視点として観光が扱われていた。

観光地形成に関わる各主体の異なる意見を取扱うことで、持続可能な観光地の在り方を生徒に考えさせる点を重視している。

これら日本とイギリスの観光に関わる学習内容をふまえて、地誌学習において観光を教材化した学習指導案を作成した。日本の観光の特徴についての学習から観光地の地域的特色を把握し、その上でイギリスの各主体の意見を取り入れた持続性の議論を導入した。日本とイギリスの学習を組み合わせることで、イギリスの学習だけでは議論されなかった伝統・文化、社会における持続性の議論を展開でき、観光地域をより多面的・多角的に捉えることが可能になると考えられる。観光地の持続性を扱う際にも、観光地域の特徴の理解の上で、各主体の意見を取扱うことでより主体的な学習の展開が可能である。

以上のように、本研究では授業実践は行っていないが、イギリスの地理教育における観光に関する学習の整理、学習内容の検討をふまえ、観光の持つ教材としての有効性を示すことができたと考える。

## 院 47 期 修士論文要旨

2015 年 3 月 修了

### 観光地・軽井沢の持続性にむけた取組みと地域システム

小池 直之

本研究では、年間800万人ほどの観光客が訪れる日本有数の観光地である長野県軽井沢町を事例に、観光資源の特性や観光資源の保存・活用に関わる主体の取組みを分析し、観光地の持続性を支える地域システムの特性を考察した。

軽井沢を訪れた観光客は、アウトレットなどの商業施設や避暑地・別荘地の雰囲気やイメージを魅力と捉えていることが明らかとなった。また、近年のガイドブック上では、歴史的別荘建築群、教会、別荘地を取り囲む樹木、散策道から構成される別荘地の景観が強調されていた。これら自然的、人文的要素は、軽井沢町や長野県の行政による法整備により、自然環境の改変を伴う地域開発や景観に調和しない新規建築からある程度保護されてきた。しかし、条例の性質上、公的規制力は及びにくく、とくに近代期に建設された歴史的別荘群は、開発や別荘所有者の世代交代、属性の変化により消失しつつあった。

別荘地に関する観光資源の分布やその歴史性から別荘地の中心となる旧軽井沢では、軽井沢の避暑地・別荘地のイメージや雰囲気を構成する別荘、自然環境、散策道、教会などに対する

価値を認識し、それら要素が作り出す調和的な景観を保存・継承することを目的としたナショナルトラストや行政の取組みが開始した。その背景には、軽井沢が有する自然的・文化的価値を認識していた一部地域住民や別荘所有間における人的ネットワークが存在していた。別荘や別荘地は私的所有物であり、その調和的な景観を継承するためには、別荘所有者や内部者、外部者など多くの主体の理解と活動への参画が必要となる。1990年代以降のナショナルトラストによる別荘への歴史的価値づけは、別荘地の文化的価値への再認識を促し、別荘所有者、地域住民、地元企業などの主体が取組みに参画するようになった。ナショナルトラストによる別荘の保存に特化した活動、行政による別荘地の自然環境に関する条例の制定、さらには別荘地に対して価値を見出した主体の取組みへの参画により、軽井沢の魅力やイメージを構成する別荘地等の諸要素にもとづく地域システムが形成され、観光地の持続性に寄与しつつある。

一方で別荘地を活用する取組みに関して、別荘所有者は観光客流入に対する危惧をもつ。今後、観光地・軽井沢に関わるナショナルトラストや別荘所有者、観光業に携わる内部者や外部企業など、異なる主体間のさらなる連携・協働が必要になると考えられる。